



# いろは呑龍新聞

2019年(平成31年)3月号  
第39号

いろは呑龍トンネルに貯めた水を桂川へ放流するポンプ場を造っています。

## タワークレーン

現場にタワークレーンが登場しました！

ポンプ場の面積は約1,600m<sup>2</sup>あるため、外周からのクレーン作業では、鉄筋等の材料を中央部まで行き渡らせることができません。

ポンプ場の中央にタワークレーンを設置することで、材料を中央部まで届けることができる他、地下に構造物ができあがるにつれて継ぎ足しが必要なマンロック、マテリアルロックのシャフトも追加することができるようになります。

ポンプ場の沈設完了までの約14ヶ月の間、主要な設備として活躍します。



すごく背の高いクレーンだね！

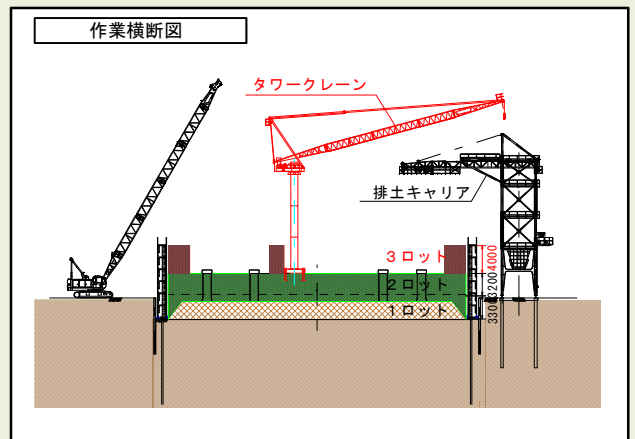


## 壁、柱の構築(3ロット目)

現在、現場では底盤となる2ロット目のコンクリート打設が完成し、続いて地下4階部分となる壁、柱の鉄筋構築を行っています。(3ロット目)

底盤はコンクリートを一面に打つことができましたが、今回はポンプ場の中にコンクリートの型枠を設置する必要があるため、ポンプ場の中に作業スペースを確保しながらの作業となります。

柱はあらかじめポンプ場の外で鉄筋の組立てを行い、クレーンで吊り上げ設置し、また壁の一部(吊桁)を工場製作することで、ポンプ場内作業の省力化と不安定な足場作業の削減による安全性の向上を図っています。



底盤コンクリート打設後

ポンプ場航空写真(H31.2)



3ロット目配筋

ポンプ場航空写真(H31.3)

## コンクリート打継ぎ目の処理

コンクリート構造物の打継ぎ目は止水性の弱点になってしまいます。ポンプ場の壁面は鉄筋が過密で板状の材料埋め込みができないため、ロープ状の止水材を使用しています。



柱鉄筋組立て状況



柱鉄筋吊上げ状況



吊桁吊上げ状況



組立て状況